



思い出に残る部活動



同窓会会長

佐藤吉市

第58号  
平成25年2月28日

発行所  
宮城県伊具高等学校  
同窓会  
責任者 鈴木英晴

印刷所  
佐藤印刷株式会社  
伊具郡丸森町大内字石神57

会員の皆様には、平成25年の新年を穏やかに迎えられましたことをお喜び申し上げますと共に、お元気でご活躍のことと存じ、心からお喜び申し上げます。忘れることのできない3・11東日本大震災も早2年を迎えようとしております。母校のある丸森町も復興元年と位置づけ、町民一丸となって町づくり頑張っております。特に東京電力原子力発電所事故の放射能汚染により大変深刻な状況・状態であり、より早く安心・安全な町に復帰できるように県・国に強く要望をし、行動してまいりました結果、ようやく今年より地域住民の除染が始まっております。町も一時交流人口が激減し、寂しい時期が続きましたが、除染等を実施することにより、風評被害を少しずつでも払拭して、また元通りに来町者が多くなる

ように願っているところでありますので、県外におられる同窓生皆様にもお声がけを頂きますようご協力をお願い致します。同窓会会員の皆様に悲しいお知らせをしなければなりません。本会会長として平成23年8月まで10年間尽力された佐藤一馬前会長が、平成24年7月21日にご逝去されました。突然の訃報であり、本部役員・職員も驚いております。24年度の総会は8月5日に母校雁歌会館で多くの会員の出席で開催されましたが、その席上で改めて佐藤一馬様のご冥福とお悔やみを申し上げたことを報告させていただきます。私としまして、前会長には顧問としてご指導を頂くべく期待した矢先の事でしたので、本当に残念極まりございません。心からご冥福をお祈り申し上げます。

去年の暮れから新年にかけて、大阪の高校におけるクラブ活動において教師による体罰で自殺するという痛ましいニュースがあり、社会問題になっております。体罰と言うよりは反抗の激しい暴力ではないかと疑いたくなる出来事が大きく報じられています。私も高校3年間は野球部に入り、楽しく活動したのは非常に良い思い出になっております。最後まで練習できたのは先輩や後輩に恵まれ、そして何よりも指導していただいた恩師小野正彦監督の、厳しさの中にも思いやりの指導があったからこそと思っております。私達の野球部の時代は、仙南大会でも常勝チームではなかったように記憶しておりますが、県大会に出場したこともありましたが、練習にあつては監督から大きな声で叱られたりはしましたが、ぶたれたことは絶対になかったです。他の部においても体罰をしての指導があつたという事実は聞いたことがあります。我々の時代の常勝チームは仙台市内の学校が主でしたが、新聞・テレビに載るような体罰指導はなかったようです。体罰で問題になった大阪の高校は、常に勝つことが当たり前、負けることは許されない部活動の中での出来事と思われまます。勝利至上主義が優先され、失敗したり、まずいプレーをした者には体罰をもって指導するように

なつたと報道されています。非常に残念な指導が恒常化したようです。それを周りも止められなかつたり、黙認したのはあまりにも勝敗にこだわりすぎたことだったのか。保護者の皆様も後悔の念を感じていたようです。高校生活は勉強が第一的でありませんが、クラブ活動も高校生活では素晴らしい勉強の場であると思えます。同じ目的を持って、夜遅くまで汗を流し、息を切らしながら共に助け合い、励まし合いながら技術を向上させていく、その手助けをするのが監督であり、指導者の役目なのではないかと私は思います。我が母校も部活動が盛んに行われているようです。大会において多くの在校生が優秀な成績を残していますし、東北大会に出場した生徒もいるようですが、どうか母校におかれましては、この事件を教訓にして体罰のないクラブ活動で、高校生活を楽しく過ごし卒業されることを心から願いたいと思えます。

私達野球部は、先輩・後輩の絆が強いのか、あるいは練習が楽しかったのか、小野正彦監督の指導が良かったのか、卒業して5年後から毎年2月の第2土曜日に集まっております。幹事も持ち回りで監督を囲むOBの会を開催し、一夜昔を語り、会を語り、学園生活を思い出しながら、酒を酌み交わしております。今年も2月に予定しております。楽しみにしている事も書かせていただきます。

母校も現在は菊地恵一校長先生を中心に、生徒たちのいきいきと学校生活を送っている姿を見ると嬉しくなります。教育目標は「21世紀の地球市民(愉しみを持って学習する人間)」「自主的な人間(積極的に物事に取り組む人間)」「自律ある人間(自主的に社会生活を送る人間)」「自己責任ある人間(前向きで責任ある人生を設計する人間)」を目指して、教師の指導の中で24年度も96名の卒業生たちが社会に船出しようとしております。伊具高等学校の卒業生として、自信を持って、強く、たくましく、優しい気持ちを持って、頑張ってください。3年間の多くの応援致します。思い出を大切に、苦しいことがあつた時や迷いがあつた時は、高校生活での教え、思い出などを糧に、更なる勇気を持って人生を歩んでください。

平成25年1月11日に本校卒業生で本校同窓会の監事として長年ご尽力していただきました角田市金津出身で、現角田市議会議員玉手安博様が逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

(農業20回・大内支部)



あいさつ

学校長

菊地 恵一

同窓会の皆様には平素から、本校の教育活動に深いご理解と多大なるご尽力を賜り厚く御礼を申し上げます。

震災から2年経過しましたが、復旧・復興の速度もなかなか上がらないようです。そんな中、福島原発事故に伴う放射能対策として県南の伊具高校をはじめとする公立学校4校の校庭などの除染作業が始まりました。

また、教職員を対象とした「放射能等に関するセミナー」の開催や、科学部を中心に生徒たちが「放射能等に関する課題研究活動」など、文科省が支援している事業に鋭意取り組みました。更には、独自にプールの清掃や農産物の放射能計測など安全基準に基づき、環境の整備にも取り組みました。風評被害にも悩まされている状況ですが、私たちは現状をよく把握し、放射能に関するしつかりとした知識を学び、確かな情報を発信することで心掛け対応しているところで

す。本校は様々な課題を抱えておりますが、生徒と教員の温かな心の触れ合いを原点とし、「進路指導100%保証」を目指して今年も健闘して参りました。少子高齢化・情報化が進み、先

の見えない社会ではありますが、生徒たちには、一社会人として、強く逞しく歩む基礎を学んで巣立ってほしいと心から願っているものであります。

さて、今年度も生徒たちは熱心に諸活動に取り組まれました。紙面の都合で特に活躍した団体のみを紹介いたしますが、各部・団体とも仙南大会や県大会そして新人大会等で日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し活躍しました。中でも弓道部や電気機械部の東北大会出場が印象深いものでした。また、野球部の県大会出場(県南地区3位)、女子バレーボール部の仙南大会初優勝、書道部や写真部、吹奏楽部が各種のコンクールや展覧会で入選を果たすなど目覚ましい活躍を

しました。進路面におきましても、苦戦を強いられることを覚悟していましたが、思いのほか善戦健闘し、例年並みの成果を上げていく状況であります。生徒各自が意識して、学校生活を充実させ将来の展望が期待できる活躍をしております。

私たち教職員はこれからも、多くの同窓生が本校の卒業生であることを誇りに思えるような学校づくりに誠心誠意努力してまいりますので、同窓生の

皆様には今後とも、母校への温かいご支援とご協力を切にお願いを申しあげます次第です。

最後になりますが、今年度、平成24年7月、悲しい出来事がありました。これまで数々のご支援を賜った前会長佐藤一馬様がお亡くなりになり大きな支えを失いました。そのご恩は言葉では語りつくせないほどであり感謝に堪えません。私たちは、前会長様の残した足跡を汚すことなく、その姿勢を学び、ご恩に報いるべく本校の教育活動に励みたいと思っております。ありがとうございました。

弔辞(故前同窓会長殿)

謹んで、前宮城県伊具高等学校同窓会長 佐藤一馬様の御霊に、お別れのご挨拶を申し上げます。

病床に伏されて半年余り、ひたすら快復をお祈りしておりました。必ずや病魔を克服され、再び温容に接し、ご指導を賜ることができると確信しておりましたが、望み空しく今日のお別れとなりましたことは、誠に悲しく、残念でなりません。

伊具高校はもはや百年に手が届かんとする歴史を刻み、卒業生も1万3千名を超え、地域はもとより各界で活躍されております。

会長佐藤一馬様は、平成13年8月から平成23年8月まで、10

年の歳月にわたり第5代の伊具高等学校同窓会会長として任に就かれて以来、衆を抜いた指導力と該博なる知識と人柄でもって、会の成長発展に務めていたがきました。何よりも本校90周年の記念式典を中心になつて挙行され、伊具高校百年を迎えるための礎を築いていただきました。前会長様は新制高校の1回生であり、初代の生徒会長として伊具高校をこよなく愛され、後輩を叱咤激励し、更には、角田丸森の地域の発展・振興に献身的なご努力とご支援を惜しみなくされました。その情熱と奉仕の精神には誰もが敬服し、深い感銘を受けております。お細やかな心配りは決して忘れることはできません。

90周年を終えて前会長様のお話を聞く機会がありました。会報や挨拶等でも話されていることですが、一言一言が深く心に残っております。その一節を紹介したいと思います。『伊具高校の歴史は人間で例えれば卒寿の齢にあたり、ため息が漏れるほどどうらやましい到達点であります。人間の歩みというのは中途半端なものでなく、幾多の挫折、病、しがらみ、それを潜り抜けてきた命の結晶でもあるのです。伊具高校として同じこと、正に紆余曲折、浮沈起伏に富む波乱の歩みであります。あらゆる艱難辛苦を撥ね退けてうち立

てた金字塔なのです。母が産みの母ならば、母校というが如く学校は育てる母であります。絆を深めた3年間、学んだことが社会に繋がるように見守ることが大切であります。そして、同窓会は学校を支える礎石であります』と。

日々の生活信条をしつかりとお持ちであり、何よりも前会長様自身の人生と本校の歴史を重ね合わせたお言葉であり、本当にお人柄が偲ばれるお話でありました。

私たちは前会長様の大好きだった「阿武隈川は洋々と」から始まる校歌のごとく地域や先輩諸氏が残した大切なものを継承し、更に創造していくことを心掛けております。これからも、前会長様の姿勢を見習いながら日々の指導に励み、必ずやご恩に報いたいと存じております。

本日に長い間のご活躍とご指導をありがとうございます。ここに謹んでご霊前に哀悼の意を捧げ、ご生前の幾多の功績に衷心より感謝と敬意を表しましてお別れの言葉といたします。

平成24年7月24日  
宮城県伊具高等学校校長  
菊地 恵一  
(葬儀における弔辞を掲載しました。)

# 会員の声

## 56年の歳月が流れても

菊地 宏

(農蚕3回・関東支部)



揺られて上京したのは、今から56年も前のことでした。

山と田畑の風景の中から旅立って着いた新宿駅の雑踏に驚きながら、用意していた代々木八幡の居室に到着し、大きな夢を抱いて東京での生活を始めたのでした。22歳の時に作詩で歌謡新人賞を受賞し、有名な作家の先生方から「東京に出て作詞家になる気はないか」と何通ものお手紙を頂き、考えに考えた末、「生涯この農村で終えるよりは…」と意を決しての上京でした。「酒は涙か溜息か」の作詩者高橋掬太郎先生が創設された同人誌の編集手伝いをしながらの作詩生活でしたが、日本の歌謡作家のほとんどの先生方に接することが出来、これからという時に思いがけない出会いから日本電信電話公社の仕事をしている会社に入社することになり、その7年後に公社からの要請もあつて関東不動産株式会社を設立し社長となり、電電公社本社専属の指定業者となったの

です。この時の公社の建築局長が愛知和男さんのお父さんでした。多忙を極めておりましたので作詩から離れざるを得ませんでした。22歳の時から親交のあつた遠藤実氏はそのまま生涯を作曲に注ぎ、日本一の作曲家となつて国民栄誉賞を受賞したのですが、亡くなる1年ほど前までお互いの家を訪ねては一緒に食事をした仲でした。

また、不動産の業界においては、いろいろな公職を重ねてまいりましたが、一昨年3月11日の東日本大震災の惨状に胸を打たれ、4月に予定していた伊具高校同窓会・関東支部の「花見の会」を急遽中止した次第でした。しかしながら今も丸森では除染作業を行っていると、どうか一日も早く安心して住める里になつていただきたいと思います。日々祈つております。また、社会に貢献する多くの人材を育てあげて来た伊具高校も更に更に将来に向けての人材育成という重大な使命感に燃えて発展していつてほしいと願つて止みません。

長いこと丸森から離れ、西新宿の超高層ビルを眺めながらの毎日ですが、我が故郷(ふるさと)に寄せる思いは今も変わりません。

春は蓬や蕨採り

蓮華の花や菜の花や

夏は小川の川遊び

盆踊り太鼓や月の夜

秋はまつ赤な柿が成り  
蝗を追つて日が暮れた

冬は静まる雪景色

次郎太郎山に射す朝日

あ、我が故郷よ

遙かなる日よ丸森の野山よ  
涙して 今も焦がるる

## 本会へ寄附

金5万円

青野 宏 光様

青野様は前会長の故佐藤一馬様のご子息で、本会のためにご寄付いただきました。また、高松宮様母校ご視察の折の写真3枚も寄贈いただいております。同窓会館2階に展示し、佐藤様のご遺徳を偲びたいと思います。



## 母校図書館へ寄贈

「涙の川を渉るとき」

—遠藤実自伝—

遠藤 実著

菊地 宏様

(農蚕3回・関東支部)

日本歌謡界を代表する作曲家であつた著者の遠藤実氏は菊地様と大変親しくされておられたそうです。今回2冊ご寄贈いただきました。本の中には菊地様の写真も掲載されています。また、合わせてお二人の写真帳も頂戴しております。



「校長室の窓から—随想—」

八巻 勝男著

宋戸 富夫様

(普通2回・仙台支部)

著者の八巻勝男様は同窓生で小斎小学校の校長として定年を迎えられ、その記念として平成10年に出版されたものです。宋戸様には同窓生の出版物を多く同窓生や後輩に手に取つて見てもらいたいというお気持ちからご寄贈いただきました。

今回、ご寄付、ご寄贈いただきました皆様、本当にありがとうございました。

## 平成24年度総会報告

8月5日(日)

午後1時30分

- ◎協議事項
  - 一 平成23年度事業・会計報告並びに承認
  - 二 平成24年度事業計画・予算案審議

◎懇親会

町内白木屋食堂 午後3時  
総会には31名、懇親会には19名の方にお集まりいただきました。今年度は役員改選等の重要案件がなかったことから評議員会と総会を一本化して行いました。(事務局 鈴木英晴)





### 祝受賞 県教育功績者

小野 正彦様

これまで教育行政の推進に貢献されたとして、本会員の小野正彦様が県教育功績者の表彰をお受けになりました。おめでとうございます。

### あいさつ

小野 正彦

(普通5回・丸森支部)

今回、図らずも長年、教育行政の仕事に尽力した功績で、県当局より表彰の栄に浴しました。これも偏に皆様方の暖かいご支援とご指導の賜と存じ、心から感謝申し上げます。平成9年、母校を定年退職後、同窓会の役員として一昨年までその任務に当たってきました。その間、母校の先生方、そして会員の皆様方のご協力にここで改めて衷心より感謝申し上げます。

昭和36年4月1日、当時の伊具農蚕高等学校に新任教員として着任、前日31日の夜半、農機具室から出火の火事騒ぎがあった。本当に慌ただしい着任でした。あれから、52年が過ぎ去りました。平成9年3月、定年退職までの36年間、母校一筋の教員生活でした。クラス担任、生徒指導、そして30年間に亘る野球部監督としての勤務、その間、

数多くの困難な壁に突き当たり、将に、茫然自失の状態になると、その都度、先輩の先生からの適切な指導助言を戴き、立ち直ることが出来ました。本当に感謝しております。

母校退職後、平成24年9月まで丸森町の教育委員として12年間、町の教育行政に携わってききました。少子化の影響は丸森町もご多分に漏れず、年々減少傾向が顕著になり、昨年は中学校の統廃合が実現され、新生丸森中学校がスタートしました。更に、小学校でも昨年は入学生ゼロの学校が出るなど、由々しき課題になってきていると考えます。

大正9年に創立された母校伊具高校もあと6年で創立百周年を迎えることになり、私達、同窓生にとつては心のふるさとであり、更に心の拠り所でもある母校が、着実なペースで時代に即応した発展をするようするよ



### 会員の声

#### 40年ぶりの母校

松本 忠明

(農業20回・小斎支部)

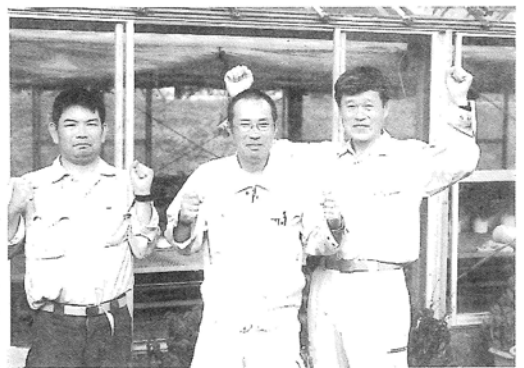
私は伊具高校農業科を昭和44年に卒業、その後専門知識を2年間勉強、20歳で大手会社に入社、名古屋を振り出しに全国の事業所6か所を転勤で渡り歩きました。

職種も研究職、指導職、販売職、データ処理職、商品出荷管理職、センター運営管理職などを40年間、他の人達が味わうことの出来ない事を経験してきました。退職後、平成23年に実家の丸森に移り、縁有って、半年後の8月と9月の2か月間、伊具高校の農場で作業を手伝わせていただくことになりました。

校門の場所が変わり、木造の校舎は鉄筋に、講堂は無くなり武道場に、牛も豚も鶏も姿を消し、牛の乳を搾ってビン詰にしてお昼休みに販売したことも夢のようです。

竜宮城から帰った浦島太郎の気持ち少しわかったような気がしました。

作業はトウモロコシの収穫から始まり、トマト、茄子等の野菜管理、草花に散水、稲刈り等で高校時代を思い出しました。その間、生徒達と一緒に頑張って作業を行い、話もさせていただきました。学校生活の考え方や、取り組み方は40年前の私達



とは違っていますが、生徒一人ひとりにそれぞれ個性があつて将来が楽しみにも感じました。

個性は桜梅桃李、とあるように、桜は桜らしく、梅は梅らしく、桃は桃らしく、李は李らしく咲けば良いと思います。

それから昨年10月、1年次生徒を対象に「産業社会と人間」について講演をさせていただきました。ここで3年間勉強して、超荒波の社会に出ていくと思おうとアドバイスにも力が入りました。卒業するまでに、一人ひとりが勇気を出してすべてに挑戦、卒業後は自信を持って社会に船出をしていただきたい。

#### 3年間の回想

目閉じ目を開け回想す

蓬田 和巳

(商業19回・大内支部)

「雁歌」とは何と良い地名だ、何と読むんだろう。「かりが、

かりが」と繰り返し黙唱してみたが、やはり優美な響きだと地名に感動したのを覚えています。高卒以来、自転車に殆ど乗ることはなくなり、辛くも良き思い出として、片道約7キロの自転車通学が思い出されます。大雪でも降らない限り3年間春夏秋冬毎日毎日のことでした。嵐で向かい風の強い日や冬には手袋をしていても指先の痛い日もありました。時には遅刻をしまいかと全力でペダルを漕いだりました。

丸森新橋あたりまで来ると百々石公園山腹にあつた「酒は大七」という白色の看板が見えて、もう少して学校だと安堵したものでした。いつの頃からか無意識のうちこの看板に愛着が感じられていました。現在、看板は撤去されて「丸森町町章」の植栽に変貌しています。

ある年の春、配席が窓側の前から2列目で、その壁が1人分背もたれみたいになり張り出して、そこからの南側土手の桜並木が美しく、授業中、ほど良い光の射す中、教科書に隠れてうっとり眺め入った至福な時期があつたのも憶えています。思い返してみるとこの時期以来、桜を長時間じっくりと見ていない様な気がしました。

3年間を通して「商業クラブ」に在籍していて、毎年夏休み、3日間にわたり町内数箇所で「交通量調査」をし、そのデータをまとめたものを文化祭で展示報告したのが懐かしい。原

稿依頼があり、じつくりと回想できたことに感謝致します。

最後になりますが、商業科第19回生男子41名、女子39名、合計80名は昭和59年3月に卒業しました。平成32年に開校百周年を多くの皆様と祝えることを祈願する次第でございます。

## 登り坂

泉 勇治

(農業43回・大内支部)

先日、町の企画で自転車の走行会へ縁あって参加しました。2・3年前から、健康のためと始めた自転車でしたが、今となっては趣味となっております。高校時代、自転車通学であれ程、自宅から学校までの道のりが長く、いやだなあと思う日もあったのですが、この年になり、また、自転車に乗ることになるとは…。

その趣味のおかげでたくさんの人達に出会うことができました。震災後、私なりに「人と人とのつながり」を考えることが度々あり、そこに生まれる喜び悲しみも含め、せめて、我が子へ伝え教えることができたらし、日々思っています。

私が高校時代の話をしても今の子供たちが聞くと、現代と江戸時代ほどの違いを感じられると、何かの本で読んだことがありました。「そこから生じる摩擦や矛盾が、現代っ子のいろいろな事件や現象に係しているように思われる」そうです。確

かに自分が昔、通学していた道とはだいぶ変わりました。新しく流行するものにも興味向きが、「人と人とのつながり」や「そこに生まれる感情」は、いつの時代も変わらないことなのではないでしょうか。その時、その時代、出会った人、思いを個々に受け止め、自分が歩いた道として心に持てたら、少なくとも「思いやり」という気持ちを持てるのではないのでしょうか。難しいことですが…。

私も人生、まだまだ登り坂を登っているところ。これからもたくさんの人と出会い、たくさんの方を教えられる、考え、そして、これからの子供たちに伝えていきたいと思えます。まずは…、この坂を登ってみよう。

## 地元で開店して

武藤 重樹

(総合1回・大内支部)

私は丸森町大内出身で、伊具高校卒業生として以前にも今回のように話を頂き、ご紹介いただきました。私の職業はサービスマンの飲食店営業で、調理人をやっております、2010年の10月5日に「まんま亭楽」を開店致しました。

前のお話を頂いた時は、ホテルオークラ東京勤務で、出張の形でオランダのアムステルダムにあるホテルオークラで働いておりました。ホテルオークラに

は8年勤務し、仙台の飲食店を経て、今は地元に戻り、「まんま亭楽」で働いております。

最初は素材の調達の際、和食で使いたい野菜や肉・魚といった今までの自分のやってきた料理食材がなかなか揃えられず、戸惑いや不安がありました。また、地元でやる以上、値段のつけ方がすごく難しかったりと、今振り返るとそこが一番大変だったと思います。それが、地元のさまざまな社長様方や主婦の奥様方などに気軽にどんどん良い意味で指摘して頂いたり、丸森にある食材で、無理して変わった食材を使わなくて良いなど、自分の今までのないところからアイデアを出して頂き、自分一人でやって行かなくても、周りの方々の力を借りながら、教えて貰いながら、最初から出来た店ではなく、お客様から教わって進歩していくようなお店でありたいなと思うことが出来ました。

まんま亭楽は皆様のおかげで昨年10月5日で2周年を無事迎えました。今、3年目に入りまして。そして今回は前々から考えておりました料理教育として学生を雇って調理人を目指すきっかけや興味を持って貰った一つひとつの仕事の大変さ、技術の凄さ、伝統の料理、歴史など、自分の教えられることを伝えていき、社会で働く前に気持ちの面で一入ひとりご考えられるようになって貰いたいと思つてい

ます。そこで3年目記念企画として、高校生をメインとした居酒屋をオープンさせることになりました。周りの同業者にはいろいろな意見を貰いますが、自分自身は自分の考えで、これからはまんま亭楽として、一料理人として出来ることに常に挑戦していきたいと思えます。

最後に地元に戻ってきた時からずっと自分が抱えている気持ちとして「自分の気持ち次第」というのがあります。田舎だからとか人がいないからとか言う若い人がいますが、都会でも田舎でも場所が変わっても、自分のやる気さえあれば出来るし、人がいなくても自分の技量を上げればやっていけるし、マイナスイ面を常にプラスで考えることが大切だと思います。田舎だからこそこだわった料理で、人が少ないから一人ひとりに感動させる料理をと思ひ、毎日精進しております。このように皆さんも考えて、もっともっと地元を盛り上げていければよいと思えます。機会があればまんま亭楽をよろしく願ひします。

## 実習助手として

船山 美麗菜

(総合11回・丸森支部)

私は平成24年3月に母校総合学科情報系列を卒業し、現在は白石工業高等学校の実習助手として勤務をしています。3月までは生徒という立場でしたが、今は先生と呼ばれる立場になり

「先生」と呼ばれるたびに気が引き締まる思いがします。

私が実習助手を目指したのは高校2年生の時です。尊敬する先生からたくさんのお話を聞いていた中で、私も今まで教えていただいたことを教えていきたいと思うようになりました。それから朝も放課後も休日も時間を見つけては先生方に勉強を教えていただき、採用試験まで必死に勉強しました。採用試験は二次試験まであり、最終的な合格発表は12月下旬でした。私が合格したとわかった時は言葉では表せないほど感動したのを覚えています。合格発表後から3月下旬までは4月からのことを考えてと、座学の勉強だけでなく実習についても教えていただきました。勉強を教えてくださいました先生方には感謝して感謝しきれません。

実際に実習助手として勤務をして約1年が経過しますが、今は勉強すること、覚えることがたくさんあります。仕事が出来ない自分を腹立たしく思い、涙を流したこともたくさんあります。お世話になった先生方や現在の勤務校の先生方のようになるにはまだまだ遠いですが、今後自分が教えていただいた以上のことをしてあげられるように努力していきたいと思えます。最後になりましたが、在学中はたくさんのご指導ご鞭撻をいただきありがとうございました。



### 進路指導部と

## キャリア教育の歩み

進路指導部長

丹野 涉

本校の進路指導の大きな改革を行ったのが平成16年4月の事だった。今までは年次主導であった進路指導を進路指導部主導の指導に切り替えた。それは、就職年の3年次だけでなく「3年間を見越した進路指導の確立」、今という「キャリア教育」の始まりであった。進路指導見直しの経緯としては3つあり、1つ目は進路指導部の存在に疑問視（求人票を渡すだけの分掌なのか）、2つ目は年次中心の進路指導に不安（進路指導のノウハウは引き継がれず年度によってバラバラな指導）、3つ目は職員間の意識の変化（本校の進路指導はこれでいいのだろうかという不安感）があった。そこで、進路を100%保証する学校という、学校の統一目標を掲げ、進路指導＝出口の指導ではなく、「自分の意志と責任で進路を選択・決定する能力・態度を計画的に育てる」ための学校作りを始めた。重点目標としては、面接指導の充実（教員の面接力アップ、模擬面接を2回から4、5回へ、丸森ロータリークラブの協力を得て外部の方と

の模擬面接）、学ぶ態度の習慣化、AMORE運動の徹底（Aあいさつ・M身だしなみ・Oおそうじ・Rルール・Eエコライフ）、授業・課外の充実（学力の伸長・定着）、模擬試験・適性検査の充実（適性・実力把握）、進路広報の発行「夢を形に」（年10回発行）、インターンシップ（3年間で最大20日）、教科・年次・担任との連携、保護者の進路意識の啓発と同時に教員の進路意識の高揚を実行してきた。年次ごとのキャリア教育の位置付けとしては、1年次では進路意識の確立を掲げ、夢と希望を語る科目である「産業社会と人間」と「進路LHR」を行い、自分を知り、社会を知り、職業を知る。また、自分と社会の接点を知る。2年次では希望実現への準備を掲げ、「総合的な学習の時間」、「インターンシップ」及び「進路LHR」を行い、職業観・勤労観の育成、自分や社会の課題を知る。課題解決に向けて行動する。3年次では進路希望の実現を掲げ、「総合的な学習の時間」、「就職進学対策講座」、「課題学習」及び「進路LHR」を行い、自分の意志と責任で進路を選択・決定するとう、3年間で繋がりを持った指導をしている。

また、資質向上のための施策として、徹底した生徒理解が挙げられる。担任が年2回の二者・三者面談を行い、徹底した生徒理解と進路指導を行い、さらに進路指導部でもキャリアカウンセリングを随時行っている。これによって、点と点を結びそれぞれの立場で生徒の希望を把握し、進路変更は直ちに担任へ報告するシステムを取っており、同時にコミュニケーション能力の向上も狙っている。また、必要不可欠なのは、全職員が支える進路指導であり、前述したように、全職員による模擬面接指導、その為の指導力向上の教員学習会を行い、統一的な指導を行うことによって、生徒が戸惑わずに到達目標に達成できる様に行っている。また、全職員による職場開拓および卒業生訪問を行い、情報収集も行っている。さらに、進路指導部長講話を各年次に設定し、1年次では12月に「3年次生の進路決定状況と見直し」を生徒と保護者に実施している。2年次では、4月に「進路希望調査より」、「学校生活と社会の違い」、「昨年の進路指導を振り返って」、11月に「フリーターとニート」、「3年次進路決定状況と見直し」、2月に保護者対象の「本校の進路指導の取り組みと進路状況」を実施している。3年次では、4月上旬に「今、何が求められ、何が期待されているのか」、「1年間の進路指導計画」、「学校生活と社会の違い」、中旬には「高校を卒業すること・社会人としてのマナー」、生徒保護者を交え

て「進路決定期を迎えて」を行っている。6月中旬から下旬にかけて「面接の受け方」、「模擬面接・職場見学の説明」、生徒・保護者対象の「生徒保護者進路説明会」を行い、ルールの説明や指導に対する理解を深めている。全年次に向けては全校集会がある度に進路についての話をしている。

インターンシップにおいては、宮城県内でも類を見ない実習日数を誇っており、最大20日間実習ができる。1回目が2年次の9月に全員対象で3日間、2年次の3月に希望者対象で3日間、単位認定のインターンシップで2単位増単で8日間、平日実施の公認インターンシップ6日間の最大20日である。

3年次の7月には応募前職場見学を実施し、夏季休業中の生徒の就職活動が活発になり、第一陣で受験する生徒が多くなる。また、実際に五感で会社を感じることににより早期離職を回避する目的もある。進学者はオープンキャンパス・学校見学会に参加し、報告書の提出を徹底することにより、マネープランを作成し、生徒を支援する家庭への経済的負担がどれほどなのかを早期に知らせる事ができる。また、同種類の学校同士を比べられ、より自分に適した進路選択をすることが出来る。

受験指導としては、適性検査セミナー（SPI・一般職適・

クレペリン・YG）を行い、知らないまま受験することを防ぎ、基礎力アップを図っている。就職進学対策講座では2時間×全7回で受験の心構えから面接対策まで幅広く対応した講座を展開している。また、受験報告書を元に就職過去問題集を毎年作成し、全校生徒に配布して受験対策の啓蒙活動を行っている。公務員に対しては1年次から「公務員の毎日学習会」を作り、昼休みに集まり公務員に向けての勉強会を実施し、長期休業には外部講師による対策講座も開講している。最後の仕上げとしては任意参加ではあるが毎年ほぼ全員が参加する「面接セミナー」がある。5日間×90分で徹底的に発声の練習から志望動機、ディベート、ディスカッションを行い、3年間行われてきた「キャリア教育」の総仕上げとして行われる。毎年、劇的に生徒たちが成長していく姿を見ることが出来る瞬間である。

これまで述べてきたように、伊具高校の進路指導は組織的に計画されており、高校での進路選択は「一生で一番大切な進路選択」ということを入学時から言い続けている。生徒も保護者も教師も皆、真剣勝負であり、その三者が融合したときに進路達成へと導かれるものと信じ、全職員で取り組んでいるものである。



### 全国高校総合文化祭 とやま2012を振り返って

#### 3年 一條 恵里

私は、「帰ろうー」という作品を出品し、8月10日から8月12日まで第36回全国高等学校総合文化祭写真部門に参加しました。

まず1日目は、開会式があり、その後には交流会にも参加して、クイズやしおり交換を通して、いろんな地域の人との交流を深めることが出来ました。

2日目には撮影会があり、特に私が思いに残っているのは、五箇山の相倉合掌集落に行ったことです。富山で有名な合掌造りを見学したり、自由に撮影したりと、歴史的な文化に触れる良い機会となりました。その他にも井波山見地区にある瑞泉寺という所にも行き、散歩をしなが

らまったりと撮影をすることが出来ました。その後は今回の大会の展示会場に行き、さまざまな写真を見て、どの作品も撮影した人の視点や個性が出ている素晴らしい写真ばかりで、とても勉強になりました。

3日目は閉会式がありました



た。作品の講評会もあり、プロの写真家の方の写真への思いや考え方を教えていただき、いろんな視点からシャッターを切ることの大切さを改めて感じました。そして大会が終わりでしたが、あつという間の3日間だと思えました。最初は不安がありましたが、他校の人とも仲良くすることが出来たり、空いた時間には富山を観光することが出来ました。このような大きな大会に参加できて、実際に自分の作品が飾られているのを見た時の喜びは忘れないと思います。

この大会では写真の技術的なことや楽しい思い出もたくさん作ることが出来ました。この体験を大切に、これからもいろいろな写真を撮っていきたいです。

### 本田宗一郎杯 Honda エコマイルレッジチャレンジを通じて

#### 3年 玉手 凌太

今回、私達は本田宗一郎杯に参加しました。私達はこの大会の約1か月前から部活動で省エネカー製作に力を入れてきました。成功と失敗を繰り返して、完成にたどり着きました。そこからさらに調整を重ね、本田宗一郎杯に向けて準備をしました。私は省エネカーのドライバーを担当し、夏休みに練習をしました。

9月に仙台市の免許センターで行われた記録会に参加し、自分たちの持てる力を発揮しまし

た。結果は8チーム中3位という結果でした。初出場で入賞することができましたが、改善する点があったので本田宗一郎杯に向けて記録会よりも良い成績を残すため活動を続けました。

そして本田宗一郎杯当日、大会は2日間行われました。1日目は記録会、2日目が本大会でした。大会では全国大会ともあり、全国各地から多くのチームが参加していました。さらに会場のツインリンクもてぎの大きさに緊張が高まりました。会場にて走行の準備のため、最終調整を行い実際に走行しました。

広いコースの中、他のチームと共に走行し、良い記録を残すことを意識していました。1日目の記録会の走行が終了し、結果が出ました。結果は前回の仙台で行われた記録会の時より良い記録を出すことができました。今回のこの記録を見て、2日目の本大会でより良い記録を出すために打合せをしました。本大会当日、打合せをしたとおりの走行をするため調整をしました。そして実際に走行しました。ですが、周囲



Honda エコマイルレッジチャレンジ2012 第32回 全国大会

を1周多くしようとしてしまい、ゴールはしたものの時間切れで記録なしとなってしまいました。今大会を通し、準備を行う大切さ、仲間と協力することの重要性を学びました。このことを忘れず、今後に十分生かしていきたいです。

### 東北高等学校弓道 選抜大会に出場して

#### 2年 黒塚 磨

私は今回、1月26日から、青森県弘前市の青森県武道館で開催された東北大会個人戦に参加しました。

25日から青森に移動し、大会前日は一般公開練習のみ行われました。大会近くまで弓道の調子が良くなり、不安でしかたありませんでした。少しでも調子を戻したいと思い、大会前日まで自分を見つめました。一般公開練習では他校の人達とも一緒に行いました。控室で待機している時、電光掲示板を見ていたのですが、ほぼ四射三中以上の人ばかりでとても焦りが出ました。私は大会前日でも思うような結果が出せずに焦っていました。ホテルに着いてからも鏡

の前でイメージトレーニングをしたり、メモ帳に悪いところを書いたりしました。

そして大会当日は、前日の反省すべき点を思い出しながら大会に臨みました。試合前にも練習ができたので、しっかり良いイメージを思いつ引きました。また、大会当日に弦を変えてみました。すると前日とは違い調子が上がり、良い状態で試合に臨むことが出来ました。試合直前に、第一に感謝の気持ち、第二に楽しむこと、第三に結果と、心の中で言い大会に挑みました。

1回目は四射四中、2回目は四射二中、3回目は四射三中、計十二射九中となかなかの的中を出し、上位に残りました。同中がもう1人いたため、「遠近」という的の中心に近くあたった方が勝ちという競技をしました。焦りが出たため外してしまいました。焦りが出たため外してしまいました。焦りが出たため外してしまいました。

したが、気合いで祈っていたら相手も外し、自分の方が中心に近く、結果は三位となりました。この大会に出場できた事も嬉しいですが、入賞できたことも何より嬉しかったです。県代表として、また、学校代表として、良い結果を出すことができ、とても嬉しく楽しかったです。



# 支部だより

## 角田支部総会

小形 とき子

(生活20回・角田支部)

角田支部総会は平成24年7月28日に、角田市本町「中華料理かんの」の2階で、佐藤吉市同窓会長、学校からは校長先生はじめ4名の先生方にご出席頂き、総勢19名の参加で開催されました。開会の前に角田支部恒例の校歌をみんなで合唱し、心一つにしてから菊地校長先生より母校の様子、後輩たちの多方面での活躍を紹介していただきました。議事に進み、平成23年度の事業・会計報告、平成24年度の事業計画、会則の改正、役員改正について報告・提案があり承認されました。



役員改正では湯村勇支部長はじめ、副支部長2名、幹事2名、監事2名が選出され承認されました。本来であればその会場で支部長の引き継ぎを行うところですが、角田支部の活動に絶大な力を注

ぎ、支部を盛り上げ、誰よりも総会の開催・懇親会を楽しみにしていた前角田支部長(前同窓会長)の佐藤一馬様が、前年12月から体調を崩され、本総会を待たずに平成24年7月21日に逝去なされましたので出来ませんでした。まだまだ佐藤一馬様からはご指導いただくことがたくさんあったので非常に残念でなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。

角田支部は昭和24・25年頃から支部総会を開催しておりますので、毎年愉しみにして出席してくださる方が大勢おります。総会終了後の懇親会は、学生当時の思い出話(何年過ぎても鮮明に覚えているものです)が次から次へと出てきて和やかな雰囲気が進み盛り上がりました。支部が多くの皆様に支えられ、益々活性化していくことを期待したいと思えます。

## 同級会だより

### 昭和28年3月卒業同級会

横山 精一

(普通2回・仙台支部)

開催日 平成24年3月25・26日

於 国民宿舎あぶくま荘

想像を超えた3・11の大震災発生で、喜寿のお祝いを兼ねる筈だった私たち伊具農蚕高等学校昭和28年3月卒業生の同級会は、準備段階で延期せざるを得



の開催に漕ぎつけることが出来ました。

県内はもとより、北は北海道白老町から、南は三重県松阪市から、そしてまた関東圏からも駆けつけていただき、男女それぞれ10名ずつの合計20名が集まりました。皆様には、季節的に体調の波もあり、何かと都合の多い中を練り合わせてご参加いただきました。誠にありがとうございました。

午後3時には全員が顔を揃え、中には60年ぶりの再会にお互いの歴史を感じて手を取り合う姿も見られました。同級会は、震災の犠牲者と物故恩師・同級生に黙祷の後、事務局宍戸富夫さんからの開会宣言、世話人代表目黒武彦さんからの開会挨拶があり、一條吉男さんの音頭で乾杯し、佐藤末夫さんと齋藤照子さんの司会で懇親会に入りました。

記念の写真撮影には宍戸さんの友人がプロの腕を振るい、高野輝子さんや大槻三郎さんもス

ナップ写真の撮影に忙しく動き回りました。

目の前に並ぶ国民宿舎自慢の料理もそっちのけで、一方では歌に踊りに手拍子の世界が展開され、一方では互いの「物忘れ」を自慢し合うなど現況を語り、思い出話に花を咲かせ、時の経つのを忘れる楽しいひと時を過ごしました。

校歌斉唱のあと、町の「えごま研究会」会員でもある目黒武彦さん提供の特産品を抱えて部屋に戻つてからも話は尽きず、雪解けで水嵩の増えた内川の水音を聞きながら眠りに就いたのは深夜の何時だったのでしょうか。

翌日は、世話役の高野輝子さんから閉会の挨拶があり、記念撮影ののち母校訪問に向かい、同窓会担当の鈴木先生をはじめ教科担当の先生方から温かく迎えられる、授業内容などの説明を受け、整備された教室や施設を見学し、変貌を遂げつつある伊具高校の様子を実感することが出来ました。

教職員は勿論、校内で出会った生徒たちも例外なく私たちにキッチンと挨拶をしてくれました。生徒会の挨拶運動の成果なのか、野菜の販売や介護実習など外部との接触で育まれたものなのか分かりませんが、後輩たちがとても頼もしく感じられました。帰りには生徒の皆さんの丹精になる鉢植えを土産に戴き、一同大喜びしながら、本間

校長の胸像を背に記念撮影をし解散しました。

大車輪の事務局に支えられ、上々のお天気にも恵まれて、大成功裡に打ち上げることが出来たと思います。皆様のご協力誠にありがとうございます。皆様の今後益々のご健勝を祈念申し上げます。

(註)

農蚕科(男) 33名  
家庭科(女) 17名  
普通科(男) 30名  
普通科(女) 14名

計94名(昭和28年3月卒業時)  
物故者(男) 22名  
物故者(女) 4名

現住所未確認者(男・女) 7名  
現住所確認者(男・女) 61名  
計94名(平成24年3月現在)

## 編集後記

今年度は前会長で顧問の佐藤一馬様と監事の玉手安博様が逝去され、事務局としても突然のことにとただ驚くばかりでした。心からご冥福をお祈り致します。

開設して2年になる本会ホームページに多くの方からアクセスいただいているようです。会員の皆様から事務局にご連絡を頂くこともあり、更に会員の皆様の交流の場となればと感じております。

同窓会事務局

鈴木英晴・菅野 厚